

ボローニャ大学 協定留学（交換留学）月例報告書（2024 年 2 月）

文化政策学部 芸術文化学科 3 年 尾高美海

みなさまこんにちは。尾高美海です。半年間のボローニャ留学も今月で終わりです。最後の報告書では、国内旅行と半年間を経ての振り返りをしようと思います。

〔イタリア旅ラスト〕

今月は日本からの来客が多く、ローマやヴェネツィア、フィレンツェにフェラーラなど惜しむことなく旅をしました。月例報告書からイメージされる尾高美海はどんな人物か、皆様の感想をお聞きしたいですが普段の私は「歩く人間スピーカー」と呼ばれる性格で基本的にのほほんとしています。そのため、日本から来た友人はお店で店員さんとイタリア語で会話を交わしたり観光客の方に道案内したりしている私の様子を見て『本当にイタリア語話せるんだね』と驚いていました。印象に残っている場所はヴェネツィアにあるブラーノ島です。ブラーノ島はレース編みの生産と、カラフルな家々が特徴的でずっと行きたかった場所でした。念願叶った旅では、かわいいレースのワンピースが至る所で売られており財布の紐が緩みそうでしたが、さすがレースが自慢の島。大学生が簡単に買える品ではありませんでした、社会人になってゆとりが生まれたら必ずまたブラーノ島に行くことを決意し帰ってきました。この日はちょうど満月と重なっていたため、ヴェネツィアの海に反射したお月様が一段と輝きを放っており美しかったです。

〔留学を振り返って〕

半年間のイタリア留学を経て得たことを一言で表すなら、良い意味で我が強くなりました。我が強くなる。言い方によれば悪い意味でも捉えることが出来ますが、自分の意思や意見をもち外部へ発信できるようになったということです。これは私が留学をするにあたり立てた目標でもあります。入学して間もない一年次、私は全くイタリア語が話せない中ヴェネツィア・カフォスカリ大学のオンライン留学に参加しました。三ヶ月間にわたるプロジェクトを通してイタリア人学生の意欲的な姿勢や周りを排除せず互いに尊重し合う姿に感銘を受けました。こうした環境を求めて留学に挑戦したのですが、現地では常に意見を求められ『なぜそう思うの？』と、イタリア人と話したら一つ的话题をどんどん深掘りしていく毎日でした。そのため、日本にいたときは周りの空気を読み、人の顔色を伺いながら過ごしていましたが、今ではあのときに比べ自分の意見をしっかり持てるようになりました。

半年間の留学ということで友人や周りの人から『半年の人はもったいない』『半年しか行けなくて悔しいだろうね』と言われることがあります。確かに、一年間の選択肢と比べ

てしまったら語学力も生活の質も圧倒的な差があると思います。それは当たり前のことです。しかし、2年半勉強に励み学費免除を継続させながらも留學費を必死に貯めて得た6ヶ月という留學期間は、誰よりも苦勞した過程があるからこそ誰よりも無駄にできなかった自信があります。

一方、反省点もあります。それは、見事に毎身体調を崩してしまったことです。幼い頃から頑丈すぎる身体だけが取り柄でしたが、イタリアで過ごしてから風邪をひいたり咳が止まらなかったりと自己管理に甘さが出ていました。謎な自信は捨てて、しっかり日本から薬を持ってくるべきでした。

以上、尾高美海らしい留學生活は終了しましたが、みなさま半年間お付き合いいただきありがとうございました。数週間前、面接官に『尾高さんは自分が成し遂げたことに謙遜しすぎ』とお言葉をいただいたので、留學におけるすべての経験に胸を張りこれから過ごしていこうと思います。困難なことも最後はなんとかあります。気になったら取り敢えず行動することを大切にしていきます。



パーティーの様子
過半数が初めましてでした



ヴェネツィアから見た満月